



Be creative !

2023年幕開け 「有言実行」の人になる！

目標は口に出すとよいと言います。しかしながら、人間は臆病でありながらプライドも高いので、なかなか口に出すことができません。密かに胸に秘めるのもいい。だが、人間は強くありたいと願う者ほど思い入れも強く、時にピンチに弱かったりします。難しいものです。

年の初めには、誰もが今後の自分の行く末を考えます。この不確実な時代の中で、求められる人間像を一つ提示するとすれば、「有言実行」の人になる！やはりこれでしょうか。



2学期終業式にてお話をしたサッカーW杯、日本代表浅野拓磨選手のことを最初に思い浮かべます。ロシア大会にて、最後の最後のところで選考から漏れた浅野選手。練習パートナーとしての同行は彼にとって屈辱であったでしょうか。カタール大会までの4年間、その日その日を全力で彼は過ごします。「あの時、ああすればよかったという日は一日もない。」この彼の言葉は、彼がこの4年間をどう過ごしたのかを雄弁に私たちに伝えます。試合に出るために、セルビアのクラブに移籍した時期もある、専属の料理人をつけ、生活面から見直すこともした。

W杯に向け、「ヒーローになる」と自らに言い聞かせてきたと言います。今大会にてその夢が叶い、ドイツ戦、彼はヒーローとなります。ここでも彼は潔かった。「ヒーローになった瞬間は一瞬で終わる。今日のドラマチックは終わった。また次に向けて挑戦したい。」

正月の恒例行事である箱根駅伝にくぎ付けになった人もいることでしょうか。駒沢大学は出雲・全日本・箱根を制し、三冠王となりました。苦しい時代を支えてくれた大八木監督の労に報いたいと部員たちで話し合い、監督にこの目標を宣言したと言います。コロナ禍で選手が倒れる中、常にベストメンバーで大会に臨めたわけではありませんが、チーム力でそれを補ってきました。大八木監督は今年度で勇退します。作り出したのは、監督の引退の花道のみならず、自らの自信と勇気でした。



もう一つ、私たちに忘れてならない存在があります。昨年12月、果敢に挑んだ全国大会で審査員特別賞を獲得した本校のダンス部です。大会前、私は彼女らへのインタビューを「校長室だより」にまとめました。「全国大会は強豪ぞろい。優勝は難しくても何らかの賞は手にしたい！」初の全国大会、参加するだけでなく、賞を狙いに行く！驚きました。なんと頼もしい。大会当日、結果発表・表彰式に参加できるのは部員と顧問のみでした。私や応援に来てくださった保護者や後輩たちはロビーで待機をすることになります。表彰状を掲げてこちらに走



ってくる彼女たちを想像して私たちは待ちました。彼女たちは走ってはきませんでした。彼女たちは静かにこちらに向かってきます。「入賞できなかったんだ……。そうだね。そんなに簡単じゃないよね。」そう思った時でした。一列に並んだ彼女たちがこう言ったのです。「審査員特別賞をいただきました！」その瞬間、賞状を掲げる彼女たちの顔が涙でゆがみました。「自分たちの足跡を残したいと思って頑張ってきました。有言実行することができて、こんなうれしいことはありません。」自分が学ぶべき人たちがここにいる！心から生徒たちを誇らしいと思いました。この瞬間に立ち会えたことに感謝する思いでいっぱいでした。

「有言実行」する人たちはまぶしい！新年にあたり、自分もかくありたいと願います。多くの課題を積み残して、3学期に突入いたします。宣言する文言が見つからないまま、新年はやってきてしまいました。模索の中での新年の始まりです。「基礎基本に着実に、目の前のことを丁寧に」さらに具体化を図り、実践を積み重ねてまいります。

生徒の皆さんと私たち教員の成長を創り出す充実した年としていきましょう。

校長 山口喜久枝